

第13回地域医療・介護研究会 レポート

日時：2015年11月6日（金）18：30～20：00 曇
場所：ちどりビル2F 参加者：32名

今回は『歯科医療』をテーマとしました。千鳥橋病院附属歯科診療所の香月所長より、在宅でどのような訪問歯科診療が行われているか、多事業所・多職種連携の連携課題について報告頂き、患者さんのADL、QOL向上のために“歯科連携”の大切さを学びました。



香月所長

始めに、香月所長より在宅における歯科の取り組みについて紹介されました。高齢化が進む中、低栄養、身体機能低下、通院困難、口腔機能低下が相互に影響して進むため、在宅での歯科医療は重要な課題です。歯科訪問診療の意義としては「低栄養と誤嚥性肺炎等の予防による健康寿命の延伸」「食べる楽しみ、話す楽しみの享受によるQOL向上」「障害を持った口腔に対するリハビリとして」が挙げられます。

臨時往診は極力即日対応を心がけています、
相談はFAX・TELでいつでもどうぞ。

次に、具体的な症例を紹介し、歯科医療、口腔ケアの実践について報告されました。現在歯科訪問では、ポータブルユニットを使い、基本的な歯科医療は外科処置を含め一通りできます。下の写真の様に口腔改善が可能です。



ポータブルユニット



左が初診時、右は義歯装着後

ALS患者さんは筋力の低下に伴い、食べる力、口腔ケア能力が低下していきませんが、歯科訪問により“食べる”を支えることができます。その他認知症患者さんの口腔ケアなど在宅での取り組みは多岐に渡ります。

最後に、在宅での歯科に関わる課題について報告されました。要介護者の9割が何らかの歯科治療が必要とされていますが、実際に歯科受診できた要介護者は3割程です。そのため上の写真の様に、口腔内がかなり悪化した状態で歯科が介入するケースが多くなっています。歯科への紹介は介護系事業所が多く、医科診療所や訪看St.からの紹介は少ないのが現状です。口腔内が悪化すると、食べる量が減った、食べるのに時間がかかる様になったといった状態が現れる様になります。医師、看護師、ケアマネ、ヘルパーなど、多職種が患者さんの口腔内を意識して見るのが重要です。歯科が介入することで、患者さんの生活改善につながるケースは多く残っているはずで

です。多職種連携も課題です。歯科にとって医療系職種との連携は6割程ができていると実感されていますが、介護系となると2割程まで下がります。ケアマネをはじめとして連携がとれていないという実感が持たれています。多職種連携が進んでいない理由としては、交流の場が無いといったことが挙げられており、改善するためには症例検討会など顔の見える関係作り、相互理解のための研修などが必要と考えられています。歯科以外の職種にとっても、歯科スタッフと面識が無い、歯科治療のことがわからない、情報交換の機会が無いといったことが連携を阻害する要因と考えられます。顔の見える関係作り、情報共有促進が課題です。



白田さん(ST)

グループディスカッション報告

- ・入院中に歯科に介入してもらうケースがある。今後は退院後の連携も課題。
- ・在宅で活躍しているスタッフへの歯科教育支援も課題。
- ・患者さん、ケアマネジャーにとって歯科治療で気になるのはお金のこと。経済的課題も大きい。
- ・普段連携が取れていないことを改めて実感。定期的に歯科の検診を受けてもらうといった連携を期待。

感想レポートより

- ✓多くの患者さんに歯科受診が必要なのがあった。
- ✓臨時往診もしてもらえるので、もっと活用したい。歯科健診月間などがあると声かけし易いと思った。
(次回は12/4 杉本みぎわさんを招いての講演会です)